

平成27年度活動報告書(1/3)

学部・委員会名 図書館

学部長・委員長等氏名 館長 矢口 行雄

担当所管 図書館 事務課

テーマ ラーニングcommons等の充実と利用促進による来館利用者数の増加を図る

1. 目標（改善点や実施の背景となる事由、達成したい目標など）
<p>これまでの図書館は、専ら静粛を旨とする閲覧環境を提供してきた。しかし、新図書館では、学習支援機能の充実も視野に入れ、多様化している教育方法及び学習形態に対応できる環境を提供していきたい。そのために、よりアクティブな学習の場であるラーニングcommons等の学内認知度を高め有効な利用を積極的に促し、図書館利用者数の増加につなげたい。</p> <p>具体的な施設は以下のとおりである。</p> <p>4階：グループ学習室及びアクティブ学習室</p> <p>6階：コミュニケーションフロアー</p> <p>7階：プレゼンテーションルーム</p>
2. 実施計画（具体的な方法・手段とスケジュールなど）
<p>1. 実施時期 一年間を通して施設利用を開放するため、集中して取り組む時期の設定は行わない。</p> <p>2. 実施方法 施設利用の案内をホームページや学内広報誌及び図書館内に掲載・掲示するとともに、図書館見学ツアー等を企画して利用者数の増加に繋げたい。</p> <p>3. その他 昨年度が新図書館の開館初年度であったため、利用者数による達成度を判断するには至らない。そのため、平成27年度においても、達成度を判断するためのデータの蓄積を行いたい。具体的には、利用頻度と利用内容及び利用者の属性等の調査を実施したい。</p>
3. 達成度を判断するための指標
<p>(1) 図書館来館者数</p> <p>(2) グループ学習室の施設利用者数</p> <p>(3) アクティブ学習室の施設利用頻度と利用者数</p> <p>(4) コミュニケーションフロアーの施設利用者数</p> <p>(5) プレゼンテーションルームの施設利用頻度と利用者数</p>
4. 成果・評価
<p>■成果 目標を達成するために必要なデータを蓄積することができた。</p> <p>■評価（5～1で記載してください） 4 方針に基づいた活動ができ、目標が概ね達成できた。</p>
5. 課題及び改善事項
特になし。
6. 平成28年度への継続の有無
有

※添付資料がある場合は、資料名、資料番号を記載すること。

平成27年度活動報告書(2/3)

学部・委員会名 図書館
 学部長・委員長等氏名 館長 矢口 行雄
 担当所管 図書館 事務課
 テーマ 農学専門分野のコレクションの充実を図る

1. 目標（改善点や実施の背景となる事由、達成したい目標など） 近年は、情報の多様化が進み紙媒体の図書や雑誌だけでなく、電子ジャーナル・e-book・オープンアクセス・データベース等の電子的な情報資源が急速に増えつつある。それらの情報資源（電子コンテンツ）を充実し、一元的・持続的な管理を目指していきたい。 また、蔵書等についても農学系を中心とした自然科学・社会科学系にわたる専門分野の資料充実は元より、農学系古書や貴重書の収集及び保存にも努めていきたい。
2. 実施計画（具体的な方法・手段とスケジュールなど） 1. 実施時期 一年間を通してコレクションの充実を図るため、集中して取り組む時期の設定は行わない。 2. 実施方法 電子コンテンツ等の購入に関しては、現在のビッグディールによる様々な問題が発生しているため、これに代わる新モデルの検討が必要不可欠である。このことについて、オール農大として、硬直化している現状を打破するため、コレクションの契約内容の見直しを含む予算の取扱いについて、鋭意、検討していきたい。 蔵書等に関しては、書籍取扱業者の推薦書籍を教職員が図書館内で選書できる「見計らい選書」を実施する。また、教職員が書店を訪ねて直接選書する「店頭選書」についても併せて実施したい。 3. その他 選書会の実施日程については、教職員のスケジュールを十分に考慮したい。
3. 達成度を判断するための指標 (1) 3キャンパス図書館による電子コンテンツ等購入に関する検討会の開催 (2) 見計らい選書の実施回数と購入冊数 (3) 店頭選書の実施回数と購入冊数
4. 成果・評価 ■成果 見計らい選書と店頭選書を実施したが、3キャンパス図書館による電子コンテンツ等購入検討会については開催できなかった。しかし、新しい試みとして学部生による学生選書を実施した。 ■評価（5～1で記載してください） 3 方針に基づいた活動ができた。
5. 課題及び改善事項 電子コンテンツ・データベース等の購入に関しては、原資確保のため予算編成方針も含めた本格的な見直しが必要である。また、新学部・新学科の設置に係る新しい研究領域に対応するための方策を検討する必要がある。
6. 平成28年度への継続の有無 有

※添付資料がある場合は、資料名、資料番号を記載すること。

平成27年度活動報告書 (3/3)

学部・委員会名 図書館
 学部長・委員長等氏名 館長 矢口 行雄
 担当所管 図書館 事務課
 テーマ 機関リポジトリによる本学の研究業績の社会発信を図る

1. 目標（改善点や実施の背景となる事由、達成したい目標など）
<p>本学の教職員、大学院生等が研究及び教育活動において生成された研究成果や教育資源学術コンテンツを一元的に収集・蓄積・保存し、学内外に電子的手段により無償で発信・提供することにより、本学の学術研究の発展に資するとともに、社会に対する貢献を目的としたい。</p> <p>平成27年度においては、学位（博士）論文を継続して登録コンテンツの対象としたい。また、新しい登録コンテンツの対象として本学の紀要である農学集報掲載論文を取り上げたい。</p>
2. 実施計画（具体的な方法・手段とスケジュールなど）
<p>1. 実施時期</p> <p>学位（博士）論文については、申請の都度機関リポジトリに登録し公開したい。また、農学集報論文については、平成27年度中に登録し公開を目指したい。</p> <p>2. 実施方法</p> <p>学位論文と農学集報を取り扱う学内担当部局や担当委員会との連携・協議を行い機関リポジトリに対する学内のコンセンサスを得たい。技術的な面では、NII（国立情報学研究所）の JAIRO Cloud（共用リポジトリサービス）を利用し機関リポジトリを構築し運営している現体制を継続したい。</p> <p>3. その他</p> <p>農学集報を取り扱う学術雑誌編集委員会において慎重に検討していきたい。</p>
3. 達成度を判断するための指標
<p>(1) 機関リポジトリによる、学位（博士）論文の公開本数</p> <p>(2) 機関リポジトリによる、農学集報掲載論文の公開本数</p>
4. 成果・評価
<p>■成果</p> <p>現在、学位（博士）論文を79本公開しているが、農学集報掲載論文については公開できなかった。</p> <p>■評価（5～1で記載してください）</p> <p>3 方針に基づいた活動ができ、目標が概ね達成できた。</p>
5. 課題及び改善事項
<p>農学集報掲載論文については、学術雑誌編集委員会で充分議論を重ねたい。</p>
6. 平成28年度への継続の有無
<p>有</p>

※添付資料がある場合は、資料名、資料番号を記載すること。

平成27年度活動報告書 (1/3)

学部・委員会名	学術情報センター（厚木キャンパス）
学部長・委員長等氏名	センター長 桑山 岳人
担当所管	厚木学術情報センター事務室
テーマ	図書館機能の充実

1. 目標（改善点や実施の背景となる事由、達成したい目標など）
<p>図書館機能の充実により、学習・教育・研究活動の支援並びに学内ネットワーク環境の充実・維持を担ってきたが、今まで以上に学生の学習と教職員の研究をサポートする機能を高めるためのさまざまな取組みを展開する。</p> <p>1) アクティブラーニングスペースの積極的活用法の研究と図書館内ラーニングコモンズ設置の検討</p> <p>2) 開館時間の見直しや選書方法の改善など運用面の充実</p> <p>3) コストを意識した運営のスリム化、見える化の促進</p>
2. 実施計画（具体的な方法・手段とスケジュールなど）
<p>1) アクティブラーニングスペースの積極的活用法の研究と図書館内ラーニングコモンズ設置の検討</p> <p>研究棟4階のアクティブラーニングスペースについて、他大学の様々な事例を研究し農大型の教授法の探索や操作講習会などを展開する。さらに図書館内ラーニングコモンズ設置についても引き続き検討する。</p> <p>2) 開館時間の見直しなど運用面の充実</p> <p>定期試験前の土曜開館以外に、通常期の土曜開館についても可能となるよう努力する。また、厚木キャンパス所属の教職員や学生による選書を実施し、利用者ニーズに合致した資料収集を目指す。</p> <p>3) 運営のスリム化、見える化</p> <p>(株)丸善への窓口業務委託とその定着化に加え、目録作成業務の委託を行う。その際、資料の登録及び利用者への提供の迅速化を目標とする。</p>
3. 達成度を判断するための指標
<p>1) アクティブラーニングスペースの積極的活用法の研究と図書館内ラーニングコモンズ設置の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設の利用状況の把握と分析。 ・先行事例研究のため、各種展示会や研究会へ積極的に参加する。 <p>2) 開館時間の見直しなど運用面の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用状況を分析し、平成27年度に完成する新学生会館の運用にあわせて開館日・時間の変更の検討を進める。 ・選書への教職員や学生の参加度を調査し、その向上を図る。また資料の回転率など運営上活用できる指標の調査と導入を目指す。 <p>3) コストを意識した運営のスリム化、見える化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の視点に立って業務を見直し、処理手順を合理化する等の改善を実施する。
4. 成果・評価
<p>■成果</p> <p>1) 新たなアクティブラーニングスペース構築のため、高輝度プロジェクターを活用したシステムを立案し、特別予算および臨時予算委申請した。</p> <p>2) 通常期の土曜日開館を実現した。</p> <p>3) 電動集密書架や入館ゲートのメンテナンス契約を、世田谷キャンパスの図書館と共同で行う方向で検討を進めた。</p> <p>■評価（5～1で記載してください）</p> <p>3</p>
5. 課題及び改善事項
<ul style="list-style-type: none"> ・研究棟のアクティブラーニングスペース未構築のフロアに関しては、新年度農学部予算にて実施予定。 ・電動集密書架や入館ゲートのメンテナンス契約に関しては、新年度より世田谷キャンパスの図書館と共同で実施予定。
6. 平成28年度への継続の有無
有

※添付資料がある場合は、資料名、資料番号を記載すること。

平成27年度活動報告書(2/3)

学部・委員会名	学術情報センター(厚木キャンパス)
学部長・委員長等氏名	センター長 桑山 岳人
担当所管	厚木学術情報センター事務室
テーマ	ネットワーク環境の維持・利便性の向上

1. 目標(改善点や実施の背景となる事由、達成したい目標など)
<p>前年度は3キャンパスのネットワーク環境の更新を実施し、ネットワーク機器の更新や学生用並びに事務用PCの更新、バイパス回線の設置などを行った。</p> <p>27年度はネットワーク環境の安定稼働とその維持に務めつつ、今年度完成予定の新学生会館のネットワーク環境の整備を行い、学生のネットワーク環境の充実を目指す。</p>
2. 実施計画(具体的な方法・手段とスケジュールなど)
<p>1) ニーズに基づいたLAN環境の充実 新学生会館にLAN環境を構築し、安定稼働を目指す。</p> <p>2) ネットワーク環境の維持・管理 厚木キャンパスのネットワーク環境の安定的な稼働を保障するとともに、他キャンパスと情報を共有し、円滑な利用環境を維持する。同時に、発生した問題を正確に記録・分析して対策に役立てる。</p>
3. 達成度を判断するための指標
<p>1) ニーズに基づいたLAN環境の充実 無線LANのアクセスポイントが正常に動作するよう、常日頃からネットワークの監視を行う。また、ネットワークの利用状況や無線LANのアクセスポイントの活用状況を把握し、コストパフォーマンスの良い運用形態の確立を目指す。</p> <p>2) ネットワーク環境の維持・管理 日々の管理プロセスを記録し、問題点を洗い出すとともに、次回の更新に向けて課題を整理する。また、メンテナンスに伴うネットワーク停止を最小限にする。</p>
4. 成果・評価
<p>■成果</p> <p>1) キャンパス内の無線LANアクセスポイントを停止させることなく運用することに成功</p> <p>2) 研究棟や学生会館のアクセスポイント増設について常駐SEとともに技術支援を実施</p> <p>■評価(5~1で記載してください)</p> <p>3</p>
5. 課題及び改善事項
6. 平成28年度への継続の有無
有

※添付資料がある場合は、資料名、資料番号を記載すること。

平成27年度活動報告書 (3/3)

学部・委員会名	学術情報センター（厚木キャンパス）
学部長・委員長等氏名	センター長 桑山 岳人
担当所管	厚木学術情報センター事務室
テーマ	蔵書スペースの確保と蔵書の整理の促進

1. 目標（改善点や実施の背景となる事由、達成したい目標など）
<p>厚木学術情報センターの蔵書冊数（7万1千冊）が、適正な収容冊数（7万2千冊）の限界値に迫り、新たな蔵書スペースを確保することが喫緊の課題となっていた。そのため、平成26年度に本部棟地下に閉架書庫スペースを設け、古い資料の移動や新刊書の配架スペースの確保が可能となった。</p> <p>今後は、大学図書館の機能である「資料の保存」と「資料の利用」のバランスのとれた運用を行うため、適切な資料管理（蔵書の除籍・廃棄を含む）を実施する。</p>
2. 実施計画（具体的な方法・手段とスケジュールなど）
<p>1) 閉架書庫を加えた新たな学術情報センターの運営マニュアルの策定。</p> <p>2) センターの閉架書庫から、閉架書庫への移動に関する具体的なマニュアルの作成。</p> <p>3) 資料の価値を踏まえた蔵書の除籍・廃棄基準の策定と実施。</p>
3. 達成度を判断するための指標
<p>閉架書庫を確保することで開架書庫の整理・適正配架を進め、利用の多い資料を中心に配架することで、使い勝手のよい図書館を目指す。</p> <p>また効果的な除籍・廃棄を実施するために、関係所管と緊密に連絡をとりつつ、センター運営委員会等で意見集約を行って基準策定に努める。</p>
4. 成果・評価
<p>■成果</p> <p>開架書庫に配架されていた、社会科学系や語学系、統計書のうち年代の古いものなど6,000冊を閉架書庫へ移動した。これにより、利用者が日常的に利用する図書の配架にゆとりが持てるようになり、新規購入図書の配架作業も順調に進めることができた。</p> <p>また、移動とともに除籍対象となる図書を選定については、センター運営委員の教員によるチェックの後、リスト化して所定の手続きを経て除籍作業を実施した。</p> <p>現在、地下書庫への移動から除籍までの作業のマニュアル化に取り掛かっている。</p> <p>■評価（5～1で記載してください）</p> <p>3</p>
5. 課題及び改善事項
<p>担当者の人事異動に伴い、マニュアル作成作業が遅れているため、なるべく早く完成させる必要がある。</p>
6. 平成28年度への継続の有無
<p>有</p>

※添付資料がある場合は、資料名、資料番号を記載すること。

平成27年度活動報告書 (1/2)

学部・委員会名	学術情報センター（オホーツクキャンパス）
学部長・委員長等氏名	センター長 佐藤 広顕
担当所管	学術情報センター
テーマ	幅広い教養の習得・学部大学院一貫教育に関する支援

1. 目標（改善点や実施の背景となる事由、達成したい目標など）
<p>①入学制度の多様化により、入学時の基礎学力にばらつきがあることから、入学前教育、入学後のリメディアル教育・語学教育の充実により底上げが求められている。</p> <p>② 学力・気力に優れた学生に対して、よりその能力を伸ばすための支援環境を充実させ、最終的に大学院進学の指導へ連動させる。</p>
2. 実施計画（具体的な方法・手段とスケジュールなど）
<p>① 教養教育（コンテンツ・資料）の充実 FD・教学委員会・語学検討委員会・学部改組懇談会と連携したコンテンツ・資料の選定</p> <p>② 当該研究分野における専門資料（冊子・EJ・eBOOK）の充実 各専攻と連携した選書、契約タイトルの見直し</p> <p>③ 冊子の充実に必要なスペースの確保</p>
3. 達成度を判断するための指標
<p>①に関する指標 (1)館内利用者・当該書籍の貸出状況 (2)当該書籍の館内閲覧状況 (3)当該資料の閲覧回数</p> <p>②に関する指標 (1)現契約状況（コスト・利用状況）の共有化 (2)院生論文指導手順の共有化 (3)当該研究分野専門資料の洗出し作業実施有無</p>
4. 成果・評価
<p>■成果</p> <p>①利用者・貸出・館内外閲覧状況は現在集計中（4月後半には集計完了）</p> <p>②購入書籍数、除却書籍数、蔵書数等は現在集計中（4月上旬には決算書完成、分析が可能）</p> <p>■評価（5～1で記載してください）</p> <p>①②→評価2（現時点では集計できていないため分析できない）</p>
5. 課題及び改善事項
<p>充実すべきコンテンツ・資料の具体性を提示できていない。 現行で取得できる利用者情報では、詳細な情報を入手できない。達成度を判断するための指標は見直す必要がある。 平成30年度に向けた学部改組、入試制度改革から展開（連動）する学情センターの実施計画として具体性を明確にする必要がある。</p>
6. 平成28年度への継続の有無
すべて継続が必要

※添付資料がある場合は、資料名、資料番号を記載すること。

平成27年度活動報告書 (2/2)

学部・委員会名	学術情報センター（オホーツクキャンパス）
学部長・委員長等氏名	センター長 佐藤 広顕
担当所管	学術情報センター
テーマ	学生のライフサービスの向上

1. 目標（改善点や実施の背景となる事由、達成したい目標など）
<p>バスによる通学者が増えている現状において、運行本数は授業時間を考慮した最低限の運行となっている。そのため、授業間の休憩場所、リラックスする空間等が必要。</p> <p>また、定期試験前には休日を含め利用者が増えることから状況に応じた開館が求められる。学生が気軽にコミュニケーションを図る空間、休日のキャンパス利用者並びに来訪者がくつろぐスペースも必要である。</p> <p>学術的な展示についても食堂・ラウンジ・回廊等を活用した工夫が求められる。</p>
2. 実施計画（具体的な方法・手段とスケジュールなど）
<p>① 学生が休憩する場所（第一食堂、第二食堂並びにその上階のラウンジ等）における利用環境の改善（学部全体の取組みとの連動）</p> <p>② 繁忙期の開館日、開館時間の延長（試験前の土日を中心とした）</p> <p>③ 学術情報センター以外のサービスエリアに対する雑誌、図書等の充実</p> <p>④ 土日開館日における他所管との連携によるサービス向上</p>
3. 達成度を判断するための指標
<p>①③ 新入生・卒業生アンケートによる分析</p> <p>② 利用者申込み状況・館内利用状況</p> <p>④ 学生教務課（土日開講授業）との連携</p>
4. 成果・評価
<p>■ 成果</p> <p>① 食堂混雑、バスターミナル発着、ラウンジ利用状況等を Web カメラで中継開始</p> <p>② 利用状況の集計は4月に実施予定</p> <p>③ アンケート結果は4月に確認予定</p> <p>④ 土曜日開講授業に対する業務を11月から学生教務課から学情センターに移行させたことで学生教務課の業務分担を軽減したことで平日の体制強化につながった</p> <p>※①③のアンケートが実施できていない</p> <p>■ 評価（5～1で記載してください）</p> <p>① → 評価2（仮設のモニターによる実施、次年度に向けて本格準備予定）</p> <p>② → 評価3</p> <p>③ → 評価2（前年度と同様の雑誌・図書を設置、内容の充実はできなかった）</p> <p>④ → 評価3（当初の目的は達成できた、次年度に向けて学生サービスへの展開を検討）</p>
5. 課題及び改善事項
<p>③ 卒業生のアンケートが外部委託となったため質問事項の事前調整が必要</p>

蔵書点検の実施時期について検討が必要（利用状況踏まえ休館日の設定が必要）
開館時間、休日開館は学部改組、カリキュラム改正の内容を踏まえて調整が必要。
土曜日に授業が設定されている現状において、学生窓口サービス等についてどこまで対応すべきか学生教務課と協議する必要がある。

6. 平成 28 年度への継続の有無

①③は学部全体の取組みとして移行させる。

※添付資料がある場合は、資料名、資料番号を記載すること。